

入選

「小さな親切」について考えたこと

山口県 下松小学校

三年 守政 拓哉

ぼくが考える「親切」とは、こまっている友だちをたすけたり、やさしくしたりすることです。

たとえば、この前の昼休みも、ぼくが遠くにけりすぎたサッカーボールを友だちが親切にとってくれました。そのとき、ぼくは「たすかったよ、ありがとう。」と言いました。この友だちの親切はとてうれしく、今もおぼえています。

しかし、ぼくのすきな本である『生きかたルールブック』で、さいとうたかしさんは、親切について、「人にした親切は、さっさとわすれる。人にかけてしまっためいわくは、ずっとわすれない」と書いています。

ぼくは、このさいとうさんの言葉を読んで、（どうして、さっさとわすれなければならないのかなあ）と思い、このことをお父さんに話してみました。

すると、お父さんは次のような話をしてくれました。

ぼくのお父さんは、朝ときどきさんぽをしています。下松小学校の前も歩いているそうなのですが、6時ごろから、学校の外をそうじしている人がいるそうです。また、教頭先生も早い時間から、学校に来られているようだと言っていました。そして、

「そうじをされている人は、たぶんボランティアだろうね。教頭先生は、大事なお仕事をされているので、早くから登校されているんだろうね。お二人とも、あたりまえのことをしていると思っっているんじゃないかな。」

と言いました。

この話を聞いて、「親切」についてもう一度考えてみました。たぶん、親切なことをしている人も、あたりまえのことをしていると思っっているのだろうなと思いました。だから、感しゃされることはうれしけれど、もし、感しゃされなくても、あまり気にしないのではないかなと思いました。

そう考えると、さいとうさんが書いていた「人にした親切は、さっさとわすれる」という言葉の意味がなんとなくわかったような気がしました。

ぼくは、今年の夏休みは、学童保育の昼ごはんとして持っていく、おべんとうばこをあらうお手伝いを毎日しています。少したいへんだけれど、あらった後に、おべんとうばこをゆびでこすると、「キュッ、キュッ」と音がするので、とても気持ちがいいです。お母さんも、

「おべんとうばこをあらってくれて、とてもたすかるわ。」

と言ってくれます。その言葉を聞くとぼくもとてもうれしいです。ぼくにとっておべんとうばこをあらうことは、今、お手伝いですが、「小さな親切」でもあります。

この夏休みからはじめたことなので、まだ「あたりまえのこと」になっていませんが、少しずつづけていって、「あたりまえのこと」にしていきたいです。